

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	H31	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	京都大学ウイルス・再生医科学研究所							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	ウイルス・再生医科学研究所・教授・野田岳志							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
京都大学大学院医学研究科								
京都大学大学院生命科学研究科								
東京大学								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	4	7	8	13	0	32	0
協力機関・協力研究者	1	5	2	24	0	32	0
合計	5	12	10	37	0	64	0

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究交流経費	国内旅費※1	3,742,876	
	外国旅費※1	6,651,215	
	謝金	51,500	
	備品・消耗品購入費	896,120	
	その他経費	2,208,874	セミナー開催、招へい旅費等
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	849,415	
	計	14,400,000	
業務委託手数料	1,440,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	15,840,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

③ 日本側の参加研究者による旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		10,394	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)	日本→日本以外の渡航		0
		日本以外→日本の渡航		0
		日本以外→日本以外の渡航		0
(単位:千円) (千円未満切捨て) ④ (相手国側参加研究者) 本事業経費の総額	日本または相手国→日本の渡航	(単位:千円) (千円未満切捨て) 左記のうち、 参加研究者の 第三国所属の 相手国側	日本または相手国→日本の渡航	
	日本又は相手国→相手国の渡航		日本又は相手国→相手国の渡航	
	日本または相手国→第三国の渡航		日本または相手国→第三国の渡航	
	第三国→日本の渡航		第三国→日本の渡航	
	第三国→相手国の渡航		第三国→相手国の渡航	
	第三国→第三国の渡航		第三国→第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
4,800	4	1,200

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	エボラウイルスのヌクレオカプシドの構造解析に関する共同研究	野田岳志・京都大学・教授	○	○	○	○	○
R 2	エイズウイルス感染症治療に関する共同研究	小柳義夫・京都大学・教授	○	○	○	○	○
R 3	ボルナ病ウイルス2型(BoDV-2)の複製機構に関する共同研究	朝長啓造・京都大学・教授	○	○	○	○	○
R 4	進化的に保存された自然免疫機構解析に関する共同研究	竹内理・京都大学・教授	○	○	○	○	○
R 5	ヒトT細胞白血病ウイルスの感染維持機構およびウイルス因子によるがん化機構の分子基盤の解明	安永純一郎・京都大学・講師	○	○	○	○	○
R 6	ウイルスと宿主の共進化メカニズムに関する共同研究	佐藤佳・東京大学・准教授	○	○	○	○	○
R 7	インフルエンザウイルスの増殖機構および制御機構に関する共同研究	野田岳志・京都大学・教授	○	○	○	○	○
R 8	アレナウイルスの増殖機構および制御機構に関する共同研究	野田岳志・京都大学・教授	○	○	○	○	○
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
R 1	博士研究員1名をのべ2か月間、Phillips University Marburg（ドイツ）に派遣し、相手国との連携強化を図りながら共同研究を推進した。Phillips University Marburgとはエボラウイルスおよびマールブルクウイルスの増殖機構に関する共同研究を進め、その成果を国際科学誌であるMicroscopy、Virology Journal、mBio、Journal of Virologyに発表した。これらの研究成果を基盤として、今後はエボラウイルスおよびマールブルクウイルスの構造解析を精力的に進める予定である。						
R 2	University of California Los Angelesとの共同研究として、HIV感染ヒト化マウスを用いた創薬研究と高度バイオインフォマティクス解析を行っている。						
R 3	共同研究先が持つBoDV-2株の塩基配列を決定するとともに、ウイルス蛋白質の発現系を確立した。今後、ウイルスのポリメラーゼ活性についてBoDV-1株と比較することで詳細な複製機構の解明を行う。						
R 4	ショウジョウバエで同定された新規自然免疫制御分子の情報を共有し遺伝子欠損マウスの作製、マクロファージにおける感染防御応答における役割の解析を行っている。今後も、Strasburg University（フランス）と共同研究を進める予定である。						
R 5	The Ohio State University（米国）と共同研究を進めており、ヒトT細胞白血病ウイルス1型および2型の病原性比較解析、各ウイルス遺伝子の機能解析を行っている。						
R 6	University of Glasgowと内源性レトロウイルスの進化に関する共同研究を実施し、その成果をPNASに発表した。						
R 7	University of Wisconsin Madisonとインフルエンザウイルスに関する共同研究を実施し、その成果をmBioに発表した。						
R 8	Phillips University Marburg（ドイツ）およびFriedrich-Loeffler Institute（ドイツ）と共同研究を進行中であり、今後も引き続き種々の病原性アレナウイルスに関する共同研究を推進する予定である。						

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー 整理番号	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業「時空間ウイルス学ワークショップ（仮）」	JSPS Core-to-Core Program "Workshop on Spatio-temporal virus researches"	延期	延期
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス感染・自然免疫学セミナー（仮）」		延期	延期
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズセミナー：臨床検体を軸とするウイルス感染症の病理学研究」	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series: Pathological studies on virus infections using clinical samples"	日本・京都・京都大学	2019年6月5日（1日間）
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズセミナー：フラビウイルス科ウイルスの指向性と進化に関する研究」	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series: Researches on Flavivirus tissue tropism and evolution"	日本・京都・京都大学	2019年6月19日（1日間）
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズセミナー：B型肝炎ウイルスの宿主選り好み」	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series: Host and tissue tropism of Hepatitis B virus"	日本・京都・京都大学	2019年6月26日（1日間）
S 6	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズセミナー：中国で発生したH7N9鳥インフルエンザウイルスのパンデミックポテンシャル」	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series: Pandemic potential of H7N9 highly pathogenic avian influenza virus emerged in China"	日本・京都・京都大学	2019年7月3日（1日間）
S 7	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズセミナー：単純ヘルペスウイルスによる核膜通過の分子機構」	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series: Mechanisms of nuclear export machinery of herpes simplex virus"	日本・京都・京都大学	2019年7月10日（1日間）
S 8	日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス感染・自然免疫学セミナー（仮）」		延期	延期
S 9	日本学術振興会研究拠点形成事業「第1309回ウイルス・再生医科学研究所セミナー：遺伝学によるヘルペス脳炎の解明」	JSPS Core-to-Core Program "The 1309th Institutional Research Seminar Series: Using genetics to understand herpes encephalitis"	日本・京都・京都大学	2019年10月9日（1日間）
S 10	日本学術振興会研究拠点形成事業「第1312回ウイルス・再生医科学研究所セミナー：HTLV-1の持続感染と再活性化の動態」	JSPS Core-to-Core Program "The 1312th Institutional Research Seminar Series: How does HTLV-1 hide? Dynamics of HTLV-1 transcriptional latency and reactivation."	日本・京都・京都大学	2020年1月27日（1日間）
S 11	日本学術振興会研究拠点形成事業「第1313回ウイルス・再生医科学研究所セミナー：HTLV-1の病原性発現の分子機構」	JSPS Core-to-Core Program "The 1313th Institutional Research Seminar Series: HTLV-1 Molecular Pathogenesis, from Hbz to CTCF"	日本・京都・京都大学	2020年2月5日（1日間）
S 12	日本学術振興会研究拠点形成事業「第1314回ウイルス・再生医科学研究所セミナー：ケミカルバイオロジーから読み解くヒト高病原性ウイルスの細胞内複製機構」	JSPS Core-to-Core Program "The 1314th Institutional Research Seminar Series: Replication mechanisms of highly pathogenic viruses revealed by chemicals biology"	日本・京都・京都大学	2020年3月16日（1日間）
S 13	日本学術振興会研究拠点形成事業「医化学セミナー：抗がん剤開発に向けた新規CRISPR/Cas9ベースのツール開発」	JSPS Core-to-Core Program "Medical Chemistry Seminar: "Development of new CRISPR/Cas9-based tools to identify cancer drug targets and mechanisms of phagocytosis"	日本・京都・京都大学	2019年6月28日（1日間）
S 14	日本学術振興会研究拠点形成事業「医化学セミナー「ショウジョウバエにおける新規抗ウイルス dSTING/dIKK β /NF- κ B経路の発見」 Akira Goto, ストラスブル大学、フランス」	JSPS Core-to-Core Program "Medical Chemistry Seminar: Identification of dSTING/dIKK β /NF- κ B as a novel antiviral signal in drosophila."	日本・京都・京都大学	2019年7月9日（1日間）
S 15	日本学術振興会研究拠点形成事業「医化学セミナー：ヌクレアーゼ：核酸免疫の制御因子に関する研究」	JSPS Core-to-Core Program "Medical Chemistry Seminar: Nucleases: master regulators in nucleic acid immunity"	日本・京都・京都大学	2019年11月12日（1日間）
S 16	日本学術振興会研究拠点形成事業「医化学セミナー：卵巣がんにおける前駆病変から発症へのメカニズム」	JSPS Core-to-Core Program "Medical Chemistry Seminar: "Transformation of Precursor Lesions to the Pathogenesis of Ovarian Cancers"	日本・京都・京都大学	2020年2月14日（1日間）

セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）	
S 1	昨年度既に同メンバーで国際会議を開催したため本年度は主に2国間の緊密な交流を行う計画に変更し、国際セミナーは次年度以降の開催へと変更した。
S 2	フランス国立保健医学研究所（フランス）から研究者を招聘し、ウイルス感染に対する自然免疫に関するセミナーを次年度以降に開催するため未実施である。
S 3	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。臨床検体と病理学を組み合わせたジカウイルスおよびSFTSウイルス研究に関して議論することで若手の育成に役立った。
S 4	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。C型肝炎ウイルスの組織指向性とフラビウイルスに広く共通する蛋白質機能に関する研究について議論することで若手の育成に役立った。
S 5	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。ケミカルバイオロジーによるB型肝炎ウイルスの侵入機構に関する研究について議論することで、若手の育成に役立った。
S 6	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。高病原性鳥インフルエンザウイルスの個体間伝播能やヒト季節性インフルエンザウイルスのサーベイランスに関する研究について議論することで、若手の育成に役立った。
S 7	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。単純ヘルペスウイルスの細胞内増殖機構の細胞生物学的研究に関して議論することで、若手の育成に役立った。
S 8	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（アメリカ）から研究者を招聘し、レトロウイルスに関するセミナーを次年度以降に開催するため未実施である。
S 9	国内から30名弱の研究者と大学院生及びイギリス側参加研究者1名（Imperial Collage of London）が参加した。単純ヘルペスウイルス患者検体を用いたウイルス感染と自然宿主応答の関連およびオートファジーの関連に関して議論することで、若手の育成に役立ただけでなく、イギリスとの更なるネットワーク強化が達成された。
S 10	国内から30名弱の研究者と大学院生及びイギリス側参加研究者1名（Imperial Collage of London）が参加した。HTLV-1の周期的な転写制御機構の1分子イメージング解析や数理解析に関して議論することで、若手の育成に役立ただけでなく、イギリスとの更なるネットワーク強化が達成された。
S 11	国内から30名弱の研究者と大学院生及びアメリカ側参加研究者1名（The Ohio State University）が参加した。HTLV-1の病原性発現におけるHbzとCTCFの機能に関して議論することで、ウイルスと病原性発現機構の分子レベルでの理解を若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立ただけでなく、アメリカとの更なるネットワーク強化が達成された。
S 12	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。抗ウイルス薬開発に向けたラッサウイルス蛋白質の機能解析と薬剤スクリーニング系の構築に関して議論することで、ウイルスの制御法に関する理解を若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立った。
S 13	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。CRISPR-Cas9スクリーニング法の開発と応用に関し議論を行い、新たな分子生物学的手法のウイルス研究への応用方法に関して若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立った。
S 14	国内から30名弱の研究者と大学院生が参加した。ショウジョウバエにおける新たな抗ウイルス自然免疫経路に関し議論を行い、ウイルス感染と自然免疫の重要性に関する理解を若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立った。
S 15	国内から40名弱の研究者と大学院生が参加した。核酸の分解を介した免疫制御機構に関し議論を行い、ウイルス感染に対する細胞応答の重要性の理解を若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立った。
S 16	国内から20名弱の研究者と大学院生が参加した。卵巣がんの病態形成機構に関し議論を行い、細胞のホメオスタシスの重要性の理解を若手ウイルス研究者に深めさせ、その育成に役立った。
S11～S16のセミナーに関しては当初の計画には無かったが、若手ウイルス研究者にウイルス感染とそれに対する細胞応答や宿主応答、さらにはウイルス制御法に関する知識を深めさせることを目的として追加で実施したものである。	
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。）	
該当なし	
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。）	
該当なし	

4. 研究交流状況

事業の型 A 型								
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)								
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)	
1 イギリス	1			1		2		
2 ドイツ			1			1	1(ポスドク1)	
3 フランス						0		
4 アメリカ		2	1	2		5		
5 シンガポール(第三国)	1	2		2		5		
6 韓国(第三国)	1					1		
7 スペイン(第三国)		1				1		
8 ポーランド(第三国)	1					1		
9 中国(第三国)	1	1				2		
計	5	6	2	5	0	18		
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
2019年8月28日から9月1日にシンガポールで開催される国際学会Option X for the control of influenzaにて、本事業R7の共同研究成果を広く発表することを目的として渡航した。								
2019年10月23-25日に韓国で開催される国際学会「東アジアシンポジウム」にて、本事業R7の共同研究成果を広く発表することを目的として渡航した。								
2019年10月22日から10月24日にスペイン・バルセロナで開催された国際学会第27回European Society of Gene & Cell Therapy Annual Congressにて、本事業R3の共同研究成果を広く発表することを目的として渡航した。								
2019年6月13-18日にポーランドで開催されたRNA2019、およびPoland-Japan RNA meetingに本事業R4の共同研究成果を広く発表することを目的として渡航した。								
2019年10月19-23日に中国で開催された国際免疫学会議(IUIS2019)に本事業R4の共同研究成果を広く発表することを目的として渡航した。								
②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)	
1 該当なし						0		
計	0	0	0	0	0	0		
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								
③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								
④海外→日本の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計		
1 フランス		1				1		
2 アメリカ	1	1				2		
3 ドイツ	1					1		
4 イギリス	1					1		
計	3	2	0	0	0	5		
⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計		
1 アメリカ	1					1		
計	1	0	0	0	0	1		

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	ドイツ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: フライブルク大学 英文: University of Freiburg	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	Institute for Medical Microbiology and Hygiene, Professor, Martin Schwemmler
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: フィリップス大学マールブルク 英文: Philipps University Marburg	
和文: フリードリヒ・レフラー研究所 英文: Friedrich-Loeffler Institute	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	6	0	0	0	0	6	
合計	7	0	1	0	0	8	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)			研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考: 日本側研究交流経費		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	Government	DFG		EUR	126
(1)日本側研究者の相手国内滞在費							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃		◎		600			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費		○		200			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費							
(5)相手国側研究者の研究経費							
(6)相手国開催のセミナー開催経費							
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)			合計	800			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	アメリカ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：カリフォルニア大学ロサンゼルス校 英文：University of California Los Angeles	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	AIDS Institute, Professor, Jerome Zack
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：オハイオ州立大学 英文：Ohio State University	
和文：ウィスコンシン大学マディソン校 英文：University of Wisconsin Madison	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	5	2	1	0	0	8	
合計	7	2	1	0	0	10	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考： 日本側研究交流経費 ¥14,400,000		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	NIH/NICHHD	R01		2019.3.13	USD	111
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○			800			
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎			1,200			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○			400			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費							
(5)相手国側研究者の研究経費							
(6)相手国開催のセミナー開催経費							
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		2,400			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません。(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	フランス
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ストラスブール大学 英文：University of Strasbourg	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	Institute of Molecular and Cellular Biology, Professor, Jean-Luc Imler
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	2	0	0	0	5	
協力機関・協力研究者	2	0	1	0	0	3	
合計	5	2	1	0	0	8	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考： 日本側研究交流経費	
負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：×		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Centre National de la Recherche	Molecular and cellular mechanisms of resistance		2019.3.13	EUR	126
(1)日本側研究者の相手国内滞在費							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎			600			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○			200			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費							
(5)相手国側研究者の研究経費							
(6)相手国開催のセミナー開催経費							
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		800			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	イギリス
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: グラスゴー大学 英文: University of Glasgow	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Center for Virus Research, Senior Research Fellow, Robert Gifford
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: インペリアル・カレッジ・ロンドン 英文: Imperial College of London	
和文: 英国医学研究会議 英文: Medical Reserch Council	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	0	2	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	0	1	0	0	4	
合計	3	2	1	0	0	6	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: ×		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥14,400,000			
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
		MRC	CVR core funding, viral genomics and viral		2019.3.13	EUR	126
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0			
(2)相手国側研究者の国際航空運賃				600			
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費				200			
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0			
(5)相手国側研究者の研究経費				0			
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0			
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		800			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機